

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

観点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これから時代を 心豊かにたくまし く生きていく力を 育むため、主体的 に学ぶ意欲を高 め、資質・能力を 育成する教育課程 編成や組織的な授 業改善に取り組 む。	(1) 主体的・対話的 かつ教科横断的な学 びの視点を踏まえた 授業改善の教員研修 会の実施と内容の充 実を図る。 (2) 外部機関を活用し 連携を継続しながら 各講座の質の維持を はかる。 (3) I C Tの効果的な 活用について、組織 的に取り組み、全職 員のスキルのボトム アップをはかる。	(1) 全教員が、単元に1 回は「主体的・対話的 かつ教科横断的な学 び」の視点を踏まえた 授業に取り組む。 (2) 「アントレ」の研 究集録を作成し内容の 継承と拡大をはかる。 各講座の質の維持をは かり、成果の検証を行 う。 (3) 全職員対象の I C Tの研修会を開催し、 職員のスキルのボトム アップをはかる。	(1) 生徒による授業評価 の項目2における「4か なり当てはまる」の回答 率3割以上となったか。 (2) 「アントレ」の研究集 録を作成できたか。 「add-on 講座」「スタディ サプリ」等の外部機関や講習 補習のアンケートで「成 果があった」との回答が 6割以上であったか。 (3) I C Tの効果的な研修 会ができたか。それが職 員のスキルのボトムアップ につながったか。	(1) 教科の特性等もあり2割 ～7割のばらつきがある中で 3割達成は6教科であった。 (2) 「アントレ」は生徒の活 動の外部発信を一層工夫し 発展的な取組を継続してい く。個人学習ツール等の有効 的な活用方法と組織的なス キルアップの研究が必要で ある。講習補習は生徒ニーズ を踏まえ内容を充実してい く。 (3) 職員への情報提供の質 と量を高めるとともに教科 毎に I C Tの活用事例を共 有してスキルアップを図ってい く。	(1) 全教科3割以上をめざ して教科の工夫が必要であ る。 ・アントレプレナーシッ プで実施したイベントなど 地域と良い交流が できている。 ・アントレプレナーシッ プ教育による他教科 の学修への良い影響を 「授業評価」で確認で きるとよい。 ・書籍や外部の教育資 源からの外部の学びを 一層活性化してほ し。	・6教科で3割達成で あることは努力が見ら れる。 ・アントレプレナーシッ プで実施したイベントなど 地域と良い交流が できている。 ・アントレプレナーシッ プ教育による他教科 の学修への良い影響を 「授業評価」で確認で きるとよい。 ・教科の工夫、講 習補習の充実、 I C Tスキル向上な どを通して授業改 善を進める必要が ある。	・主体的・対話的 かつ教科横断的な学 びの視点を踏ま えた授業改善、外 部機関を活用しな がらの各講座の維 持、 I C Tの効果 的な活用を組織的 に取り組み活動が できた。 ・教科の工夫、講 習補習の充実、 I C Tスキル向上な どを通して授業改 善を進める必要が ある。	・授業力向上の研究指 定校として、3年計 画の策定と単年度の テーマ作りを始め、校 内組織の構築と意 識作りを進める。 ・カリキュラム・マネジ メントを推進し、教科・ 科目と総合的な探究の時 間の学びを積極的に連携 させる。 ・テーマ学習、研究など プレゼンテーションの構 造的な指導を行い、課題 への主体的な関わりと積 極的な質疑応答を引き出 す指導を行う。
2 生徒指導・ 支援	部活動や行事、日 常的な生徒指導を 通して、社会規範 を身に付け責任感 や連帯感を高め、 自己実現に向けて 努力する姿勢と命 を大切にする心を 育む。	(1) 社会情勢に柔軟に 対応しながら組織的 で細やかな教育相談 体制と生徒指導体制 を構築することで円 滑で充実した指導支 援を行う。 (2) 厳しい社会情勢の 中でも生徒たちの活 躍の場を少しでも多く 確保する。行事、 部活動等の制約の多 い中でも充実した活 動をおこなえるよう 支援する。	(1) ①こまめな情報発 信と収集により教育相 談窓口を活性化し、迅 速かつ適切な対応をと れる組織を構築する。 ②ITモラルに係る指導 を充実させる。 ③交通安全に係る定期 的な指導を行う。 (2) ①行事の精選と実 施の際の安全性確保を 心掛ける。 ②部活動において生徒 が充実感を味わえるよ う適切な指導、支援を 心掛ける。	(1) ①マニュアルに沿っ て組織的に支援でき たか。 ②SNSトラブルが減少し たか。 ③交通事故や近隣からの 苦情が減少したか。 (2) ①行事におけるアンケ ート調査で満足度は高 かったか。 ②部活動におけるアンケ ート調査で満足度は高 かったか。	(1) ①教育相談は組織的に生 徒個々の状況に合わせて対応 できた。コロナ感染症対策は 概ね良好と答えた生徒が 79.1%であった。 ②SNSトラブルの案件が3件 あった。 ③自転車の大きな事故はな く、バス乗車の苦情も激減し た。 (2) ①生徒アンケートで体育 祭は73%、芸術鑑賞会は 93%の生徒がよかったですと回答 した。球技大会は学年末実施 のため次年度集約の予定であ る。 ②部活動満足度アンケートで はコロナ禍で制約が多い中 76%の生徒が満足と回答し た。	(1) ①教育相談はより一 層組織的に、細やかな対応 をしていく。コロナ感染症 対策は、黙食の徹底を組織 的に実践していく。 ②ITモラルについて生徒・ 保護者に注意喚起を行う。 ③組織的な登下校指導を定 期的に行うとともに正門横 掲示板で学校行事等の情報 発信を行う。 (2) ①新型コロナ感染防止 を工夫して全ての学校行事 に実施をめざす。 ②コロナ禍による制限のあ るなかで生徒の満足感を高 められるような指導を工夫 する。	・バス利用の苦情が激 減したことはとても素 晴らしい。 ・コロナ感染症対策は 引き締めての取組をお 願いしたい。 ②ITモラルについて生徒・ 保護者に注意喚起を行う。 ③組織的な登下校指導を定 期的に行うとともに正門横 掲示板で学校行事等の情報 発信を行う。 (2) ①新型コロナ感染防止 を工夫して全ての学校行事 に実施をめざす。 ②コロナ禍による制限のあ るなかで生徒の満足感を高 められるような指導を工夫 する。	・バス乗車マナー 苦情等の減少から バス乗車マナーが 改善傾向にあると 判断される。 ・SNSトラブルや 課題を抱える生徒 の問題などには継 続的かつ丁寧な対 応を行った。 ・高校生の社会的自立 や社会との繋がりを意 識し指導してほしい。 ・地域に居場所スペー ス・相談スペースがあ る。活用されたい。 ・部活動満足度結果も 良好である。	・変化の多い社会情勢の 中、不安や課題を抱える 生徒、家庭への個々の状 況に応じた支援が求めら れている。教育相談体制 の充実にむけて、職員の 知識やスキルの向上を図 る。 ・豊かな人間力の育成を 目指し、新たな生活様式 を意識した行事の在り方 を引き続き模索してい く。 ・生徒の活躍の機会や活 動の様子を学校内外で広 報する機会を増やし、自 己肯定感の向上に繋げ る。
3 進路指導・ 生徒一人ひとりの	(1) 社会状況の変化に	(1) 様々なデータ検証	(1) 進路希望調査を年2回	(1) 進路希望調査とフィード	個々の多様な生徒への丁寧	・3年間を見通したキ	・情報の収集と分	・ I C T活用で進路実現	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
支援	進路希望実現に向け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	対応した進路希望実現のためのサポートを充実させる。 (2)生徒個々の主体的なキャリア意識の形成をサポートする。 (3)3年間を見通した進路支援を、生徒・保護者に対して行い、高校生活の充実を図る。 外部人材を活用する機会を増やし、多角的で確実なキャリア支援を行う。	により社会状況の変化に対応する緻密な情報収集と活用を行う。 (2)①総合的な探究の時間を活用し進路に係るスキルアップを図る。 ②“社会人に学ぶ”や“SDGs”的学びにより、生徒個々のキャリア意識を高める。 (3)生徒・保護者向け説明会や外部機関を積極的に利用し新入試への具体的な対策や学習意欲の喚起を促す。	実施し生徒のキャリア意識を向上させることができたか。 (2)①探究活動を通して進路に係る基本スキルの習得ができたか。 ②探究活動の成果のデジタルデータ化とポートフォリオ化が進路の準備に役立ったか。 (3)説明会を2回以上行い円滑な進路活動につなげられたか。外部模試を年3回以上実施し学力向上を図れたか。	バックをGoogleフォームで迅速に行なった(2回)。 Classroom等を活用し調査、情報提供を速やかに行うことにより各自のメタ認知に働きかけキャリア発達を促すことができた。 (2)探究学習のキャリアアプローチシステムを導入し生徒活動とその成果のデジタルデータ化及びポートフォリオ化を進め、高い進路指導につなげる。 (3)保護者説明会をweb配信など工夫し2回実施し円滑な指導を行なった。模試の活用により進路指導を活性化した。 次年度に向け新たな進路支援システムの導入計画も立てることができ、多様化する生徒に対応できる体制を構築することができた。	な対応により生徒のキャリア意識を一層高めるため、キャリア指導関連業務のデジタル化やICT活用により一層の効率化と質の向上が必要である。一人一台PC化の導入とともにクラウドシステムを導入し生徒活動とその成果のデジタルデータ化及びポートフォリオ化を進め、高い進路指導につなげる。 次年度以降、カリキュラム支援Gや各学年と綿密に連携し体系的な進路指導を構築し進路実績の一層の向上に努めたい。	キャリア意識の形成に学校として取り組まれ、実績を上げている。 ・丁寧な進路指導を実施し、キャリア教育ができる。 ・WEB開催の保護者説明会はとても良い。 ・「社会人に学ぶ」など多様なキャリアを具体的に示すことは生徒に大きな刺激となる。 ・学校の将来のためにも教員志望の学生を育てる必要がある。	析、発信の内容の工夫や頻度を上げたことによりキャリア実現のための指導が一層充実した。 ・生徒のキャリア意識のより一層の向上と実効性のある指導に向けてICT利活用による業務効率化、生徒活動のポートフォリオ化などを図つて行く必要がある。	ロードマップ作成、模試結果の活用と面談を有機的に連携付け実践的な進路支援を行う。 ・学習時間と学力伸長の関係を検証し、弱点を補う学習ツールの導入・活用により多角的な支援を図る。 ・社会人講演会や外部人材の活用で多様でリアルなキャリアを示すことで、生徒の学習意欲を刺激し向上を図る。	
4	地域等との協働	地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	(1)地域と連携や協働する機会を増やし生徒の自己肯定感と主体性を高める。 (2)地域貢献に対する生徒の意識を高め推進を図る。	(1)ボランティア委員会等を有効的に活用し地域や外部機関との交流を図る。 (2)社会貢献に向けての情報や機会の提供と取組みを支援する。	(1)地域や外部機関と連携・協働する機会が増え生徒の自己肯定感や主体性を高めることにつなげられたか。 (2)地域と繋がることで、学校への信頼と協力が得られたか。	(1)(2)コロナ感染が収まらないなか、生徒の活動を通じての地域との連携は図れなかつたものの、学校運営協議会委員の美しが丘四郵便局長のご協力の下、本校生徒の美術作品や絵画を展示していただきたり、アントレプレナーシップ最終プレゼンテーションにおける旅行業者や東急、横浜市との連携が図れた。	生徒が主体となっての地域連携が最も重要であり、今後のコロナ感染状況を注意しつつ、如何に無理のない範囲で活動できるかがカギとなる。地域に根ざした学校、地域に愛され育てられる学校を目指して、今後も精力的に連携をしていくことが課題と考える。	・コロナ禍の制限ある中、新たな視点を加えながら開かれた学校を目指してこられた点が高く評価できる。 ・地域郵便局での美術部写真部作品展は好評であり継続したい。 ・アントレ、More活動など地域との繋がりが多く「地域に愛され育てられる学校」という目標を実践している。	・オンラインの活用等により地域や外部機関と連携協働する機会を模索し継続的な交流を図った。 ・ボランティア活動等による社会貢献に対する意識醸成を図る。	・学校運営協議会を始め、外部機関、行政機関など外部の教育資源の協力を得ながら社会とのつながりを経験する機会を増やす。 ・生徒が主体的積極的に社会に関われるよう、社会貢献に関する機会提供と校内の支援体制作りを推進する。
5	学校管理 学校運営	保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させるとともに、安全・安心・快適な学習環境を整備し、保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。	(1)組織的な防災意識の向上と防災体制の整備を推進する。 (2)①本校の教育活動や活動実績、魅力を、丁寧にわかりやすく説明する。 ②確かに安定した情報提供を行う。 (3)社会の状況やニーズに迅速に対応し、面倒見が良く、かつ安心安全な学習環境の整備を推進する。	(1)実際の災害を想定し防災意識の向上と防災体制を充実させる。 (2)①学校説明会等の運営が、基本的データをもとに説得力のある内容にする。 ②学校HPやツイッターに本校の情報を詳細かつ丁寧に掲載する。 (3)教育環境変化や課題等を保護者・地域と情報共有し環境整備を進めること。	(1)日常の中で常に防災意識があり定着しているか。 (2)①学校説明会で具体例を挙げて参加者が本校の魅力を感じることができたか。 ②学校HPやツイッターの更新を2週間に1回以上行い広報を充実させることができたか。 (3)職員間で課題を共有し安心できる学習環境を確保できたか。	(1)コロナ禍で実情に合わせた防災訓練を行なった。また、災害時の備蓄品の整備を適切に行なった。 (2)①②予定していた説明会はすべて実施し参加した保護者や中学生からも高い評価をいただいた[3203名参加(R2年度2164名)]。説明会以外にもオンライン高校合同説明会への参加や校舎見学会[100名(R2年度595名)]を実施するなど、精力的に広報活動に努めた。[のべ人数3303名(R2年度2759名)]	(1)コロナ感染症対策の徹底と実効性のある防災・避難訓練を行う。災害備蓄品の整備をしっかりと行なう。 (2)コロナ禍であっても本校の目指す学校像や方針及び魅力を中学校や保護者に確実に伝えるため、具体的な数値目標を設定し取り組んでいくことが必要である。	・コロナ禍で座学中心の防災訓練を実施するとともに災害時対策として備蓄品の整備を実施し防災意識の喚起ができた。 ・オンラインの高校説明会や学校見学会は良い。生徒と保護者、地域との垣根が高くなっていると感じる。	・コロナ禍で座学中心の防災訓練を実施するとともに災害時対策として備蓄品の整備を実施し防災教育を充実させていく。 ・ICTの効果的な活用を促進し、職員全体で広報の重要性を意識しながら、引き続き質、量ともに充実した情報発信を行っていく。	